

朝日新聞 2011(平成23)年10月13日(木) ぶらりミュージアム

ぶらり ミュージアム

県立博物館

「この大きな桶、何に使うんですか?」。小学生や中学生のみなさんからそうした質問をよく受けます。

これは、紙漉きで使われていた道具の一つで、「ムシオケ」といいます。

水を入れる桶とは違い、和紙の原料のコウゾやミツマタの生木を蒸す

紙漉き原料蒸す際に使用

「ムシオケ」

ときに、大きな釜にかぶせて使っていたものです。神埼市の三谷地区で昭和40年代まで使用されていました。

紙漉きは、今では伝統工芸の一つになっていますが、もともと日本の山間部で、稲刈りが終わった後の冬の仕事として行われてきました。冬、大釜にかぶせたムシオケから、湯気が上がる光景が各地で見られたことでしょう。

常設展では、この他にも県内で昔から使われてきた様々な道具が400点近く展示されています。ぜひ、実物を見にお出かけください。

(県立博物館 塩田寿子)



佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半〜午後6時。休館日は月曜。